

第5回会議のご意見まとめ

第5回会議で頂いたご意見（概要）を、第5回会議資料6-2「検討にあたっての視点」のキーワードで整理しました。

1. 「町田市における生涯学習について」

（1）学習権の保障

- ・ご意見なし

（2）「人材育成」されるべき人材像

- ・困難な状況にある若者たちを学びで支援することで、学びがエンパワーとなり、さらにはキャリアに生きていくような役割を担う。
- ・町田の歴史や文化、観光、名産に詳しい「町田マイスター」を育ててみてはどうか。横断的なので、生涯学習センターらしいのではないだろうか。

（3）タテ割り（市長部局と教育委員会）

- ・生涯学習センターの主催事業の中には、市長部局の各部で同じような取組が実施されていると思われるものもあり、生涯学習センターが実施し続ける必要があるのか疑問である。今後の生涯学習センターのあり方としては、専門分野の事業はその分野を専門とする市長部局が担い、生涯学習センターは情報発信のお手伝いをするというあり方が望ましいと考えている。アンケート調査などを実施し市民ニーズを把握することで、庁内関連部署への働きかけをおこなうような役割も同時に担う必要がある。
- ・生涯学習センターが全て主体でやっていくのは難しいので、センターとして必ずやらなければならないことは何か、まずはっきりさせること。それから、それぞれの組織（部署）が専門的に担っていく部分や、センターがタイアップしながら一緒にやっていくような部分はどこなのかということについて、しっかりと整理しなければならない。前から言われていることだが、そうした棲み分けをしていく必要がある。

（4）地域協働

- ・学校側から発信する場がないので、生涯学習センターにその役割を担ってもらえると良い。2021年度から市内学校全体がコミュニティスクールに変わることに伴い、地域の人材をどんどん入れていく方向性となっているが、教育現場で子どもたちに教え

るためにはノウハウが必要である。講座の講師などを対象に、子どもたちへの伝え方、学校教育の方針や現状、保護者の考えをきちんと知ってもらうような機会があれば、地域での人材の活用はもっとうまくいくはず。その役割を生涯学習センターでぜひ担っていただきたい。

- ・民間のようなサービス提供は、市民参画や学校協働の考えとは相反する。生涯学習センターがサービスの提供者に回ってしまうと、市民はお客様としての参画しかできなくなってしまう。市民が当事者として参画していくにはどうしたら良いのか、という視点で組み立てていくことが重要。

(5) 市民主体の学び

- ・市民協働を軸に考えすぎてしまうと、政治的・行政的な課題を市民に負わせすぎてしまう可能性があり、いかがなものかと思う。ただ楽しく前向きな学習というのが、それぞれ個人にもっとあっても良いのではないか。
- ・「市民主体の学び」を行っている登録団体は多いが、外部に向けて門戸が開かれていないことが課題である。同じことについて学びたい人が新しく入ってきて、学び合いながらやがて地域に還元されていくのが理想であるので、生涯学習センターで地域還元のしくみを検討していく必要がある。